

■日時 令和元年8月13日(火) ■天候 雨 日本ウェルネス高校・通 対 神戸市立楠・摩耶兵庫高校連合

■球場 明治神宮野球場 第1試合 1回戦 ■試合時間 1時間36分 ■備考 6回コールド

■審判 球審:竹本 塁審:小山 田島 佐々木

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9					計	安	失
日本ウェルネス	東京2	5	0	0	0	4	3								12	10	2
楠摩耶兵庫連合	兵庫	0	0	0	0	0	0								0	0	7

日本ウェルネス		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	三	捕	右	築地 幸汰	4	2	1	1	三振	三ゴ			左本	遊失							
2	二	三		小松 拓毅	4	1	0	0	中飛	三振			投失	遊飛							
3	投	遊	投	津澤 拓実	2	3	1	0	四球		三振		四球	左安							
4	遊	投	遊	稲葉 亘輝	4	2	1	1	中3		遊ゴ		中飛	一失							
5	中			富山 義士	4	2	2	2	二失		投ゴ		遊安	中安							
6	左			春日 彪雅	4	1	1	1	一失				二飛	遊失	遊安						
7	一	三	一	竹中 颯野	4	1	2	4	右3				三振	左安	三振						
8	捕	一	捕	東 龍	3	0	1	0	三失				左安	三ゴ							
9	右			長澤 佳樹	2	0	1	0		中安			三飛								
9		右	二	廣田 巧	1	0	0	0							投ゴ						
合計					32	12	10	9	残塁:5 併殺:1												
備考																					

■バッテリー

投手
津澤 拓実
稲葉 亘輝

捕手
東 龍
築地 幸汰

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
津澤 拓実	5	15	0	8	1	0
稲葉 亘輝	1	5	0	1	1	0

楠摩耶兵庫連合		ポジション		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9				
1	捕			池田 風雅	2	0	0	0	四球			三ゴ	捕飛								
2	遊			山口 敏成	3	0	0	0	捕飛			左直	投ゴ								
3	中	三		千葉 陵登	2	0	0	0	三振			三振									
4	三			村岡 龍人	2	0	0	0		三振			二失								
4		中		小田 凌平	0	0	0	0													
5	一	投		飯島 敦哉	2	0	0	0		三飛			三振								
6	二			春名 広樹	1	0	0	0		三振			四球								
7	右			小井 豊春	1	0	0	0			三振		三振								
7				山下 恭右	1	0	0	0													
7		一		魚住 陸斗	0	0	0	0													
8	投	右		金澤 征人	2	0	0	0			投ゴ		遊失								
8			右	野崎 翔哉	0	0	0	0													
9	左			中村 洋二郎	1	0	0	0			三振										
9				田畑 介翔	1	0	0	0							三振						
合計					18	0	0	0	残塁:2 併殺:0												
備考																					

■バッテリー

投手
金澤 征人
飯島 敦哉

捕手
池田 風雅

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
金澤 征人	5	26	7	4	2	2
飯島 敦哉	1	8	3	1	0	0

■戦評

令和元年、第66回大会開幕試合は兵庫県代表楠・摩耶高連合対東京都代表日本ウェルネス高校の対戦により、22代表校の頂上を目指す4日間にわたる戦いが始まった。試合は1回、先攻ウェルネスの攻撃は楠・摩耶高連合の先発投手金澤の立ち上がりを攻め、2死後3番津澤が四球を選び、出塁すると4番稲葉の左中間三塁打で1点を先制した。その後も内野の守備の乱れと7番竹中の右中間三塁打などで初回到5得点と大量得点で先制した。その裏、楠・摩耶高連合の攻撃は、1番池田が日本ウェルネス先発の津澤から四球を選び出塁し、1死後2塁に盗塁と立ち上がりの津澤を揺さぶったが、津澤はその反撃の芽を自らのけん制で摘み取った。2回以降、両投手ともに本来の力を出し、相手の攻撃を抑えていたが、5回に入り、日本ウェルネス先頭打者の築地が左翼スタンドに本塁打を打ち加算すると、楠・摩耶高連合の守備の乱れに安打を絡め、この回4得点を追加し、9点と大きく差を広げ、6回にも3点を追加し、その裏の楠・摩耶高連合の攻撃を無得点に抑え、大会規定によりコールドゲームとなった。この支配の中で守備の乱れが大きな得点差になったことは残念である。